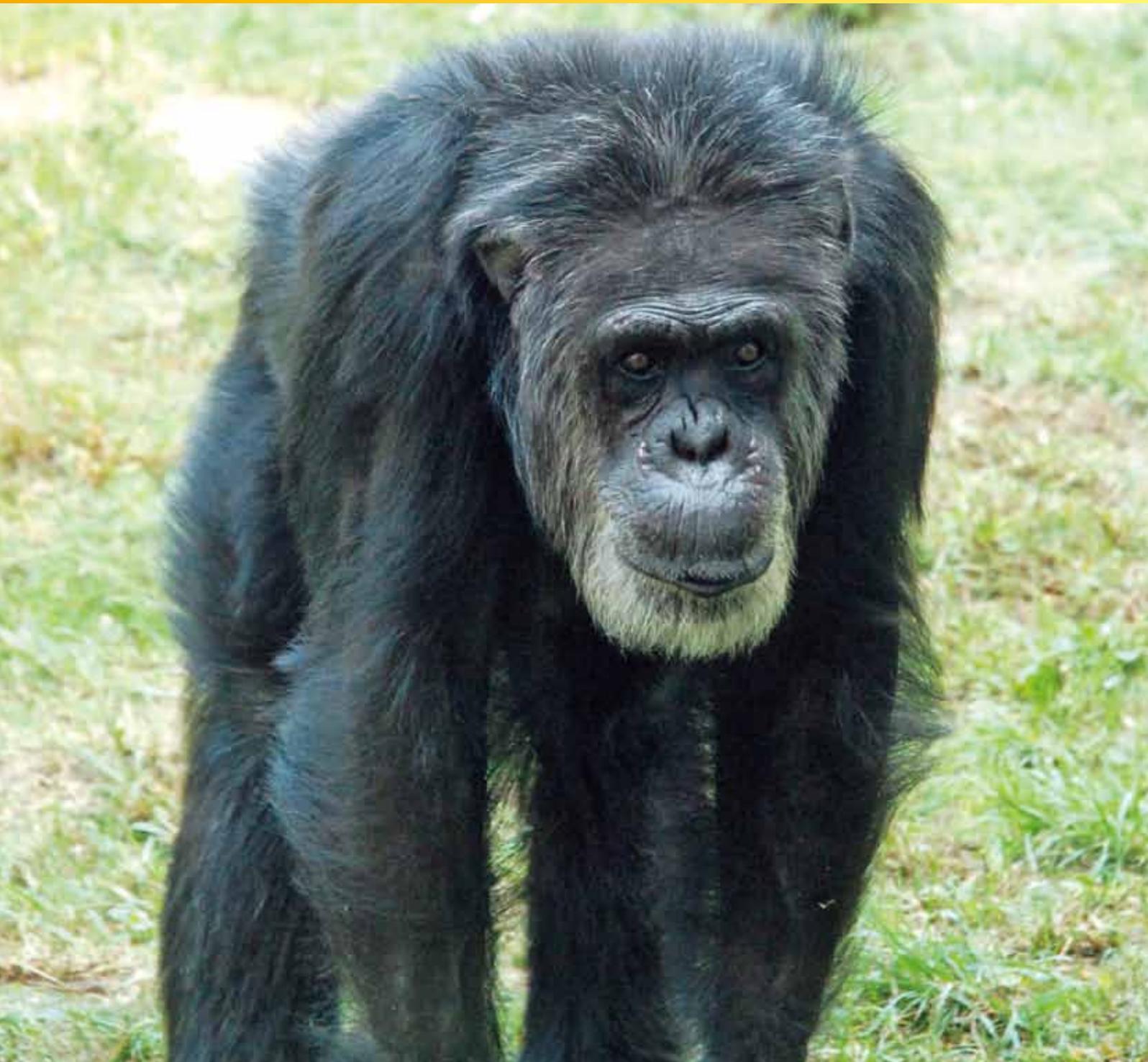


# はばたき

神戸の動物園グラフ

67  
2011  
APRIL



K O B E  
O J I Z O O

開園60周年記念  
神戸市立王子動物園 第67号

## はじめに ～開園60周年を迎えて～

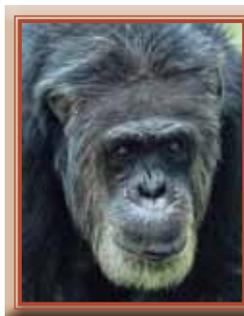
1951年3月21日に開園した王子動物園は2011年3月21日に60年目を迎えました。

機関誌「はばたき」も今まで66刊発行し、王子動物園の話題を皆様にお届けしてきましたが、節目の年となった今春号は、この10年間を振り返り、また昨年の1年間の出来事と合わせた特集としました。

この間、2008年4月には開園して以来、王子動物園を見つめ続けていた日本最高齢のインドゾウ「諏訪子」が亡くなり、その年の秋には待望のジャイアントパンダが生まれたものの3日間で死亡するという悲しい出来事もありましたが、日本で初めてのインドゾウが誕生し、オランウータンやカバの誕生などうれしい出来事もありました。また、カバ舎やゴリラ舎、シマウマ舎など動物舎の改修も行い、久々に来園された方は、10年前とは全く違う動物園になっていることに驚かれるのではないのでしょうか。

還暦を迎えた王子動物園は、新たな気持ちで今後とも種の保存など動物園に求められている役割を果たしつつ、来園される方々の憩いの場として動物をより観察しやすく、楽しめるよう進化し続けていきたいと考えています。

「はばたき」編集部



表紙動物

**チンパンジー**  
(霊長目ショウジョウ科)  
*Pan troglodytes*

人間に最も近いといわれている類人猿でアフリカの赤道付近に生息している。昼間活動し、雑食性で主に樹上で生活している。写真の「ジョニー」は61歳で日本最長寿。

## 目次 CONTENTS

表紙 チンパンジー「ジョニー」

P1 はじめに・目次

P2 特集1  
●特集「ジョニー」とともに60年

P9 私のメモリーZOO

P11 トピックス・イベント

P14 特集2  
●シタツンガの人工哺育  
●フサオマキザルの人工哺育  
●ゴリラ運動場のドライミスト  
●猛獣たちの健康診断  
●オオアリクイ繁殖への取り組み

P23 動物教室から  
ZOOっとタイムズ No.33

P24 動物図鑑シリーズ  
●No.31 ミナミシロサイ ●No.32 ニホンリス

P26 動物の話題  
●ニューフェイス  
●別れ

P27 第22回アマチュア動物写真コンクール  
●特別賞作品展示

P29 夏休み自由研究サポート展  
「動物園・ふしぎ発見！」

P31 第43回「卯年」賀状版画コンクール  
●特別賞作品展示

P33 干支展「ふしぎの国のウサギたち」

P37 サポーターズコーナー  
●サポート企業・個人支援者一覧・サポーター募集

P38 チンパンジー「ジョニー」のリアルフィギュア製作日記

裏表紙 裏表紙写真（「ジョニー」のリアルフィギュア）  
●バックナンバー紹介

王子動物園は1951年3月21日に開園し、今年で60周年を迎えました。開園当時は動物舎も十分整備されていませんでしたが、60年の歳月を経て色々な動物も増え、動物舎も整備され、種の保存などにも取り組んで新しい動物園として生まれ変わろうとしています。

その間、外国の動物園との交流、特に中国とは「キンシコウ」や「ジャイアントパンダ」の共同研究を通じて友好を深めてきました。また神戸は1995年1月の阪神淡路大震災から17年を経過し、震災からの速やかな復興と、21世紀という新たに時代に相応しい都市づくりを進めています。王子動物園にはその復興の様子を見つめてきた動物がいます。開園以来王子動物園で暮らしていたインドゾウの「諏訪子」が2008年に天寿を全うし、今は1955年来園したチンパンジーの「ジョニー」がその後を引き継いでいます。「ジョニー」は61歳となり日本最長寿のチンパンジー、園内最長寿の動物となっています。では王子動物園の主な出来事を振り返ってみましょう。



● **1951年** (昭和26年)

- 神戸市立王子動物園として開園(3月21日)
- 開園初日、インドゾウ「摩耶子」(メス)と「諏訪子」(メス)の到着後、開会式。10万人の人で身動きできないほどの賑わい。
- 猛獣舎完成

● **1952年** (昭和27年)

- ライオン導入
- 円型水禽舎を諏訪山から移設

● **1953年** (昭和28年)

- 園内に桜200本を植樹
- アシカ池、ゾウ舎、キリン舎、遊園地完成



アシカ池

- アミメキリン導入

● **1954年** (昭和29年)

- トラ、グレビーシマウマ導入

● **1955年** (昭和30年)

- 第11回国民体育大会開催のため、動物園敷地東部を提供し、代替として南園と北園を敷地に入れる。
- 中型猛獣舎、ヒヒ猿類舎、ロバ舎、ヤギ・メンヨウ舎、シマウマ舎、ラクダ舎、飼育調理室完成。
- チンパンジー「ジョニー」(オス)、チーター、キノボリカンガルー、シュバシコウ、マントヒヒ、ロバ、ニルガイ、ウワカリ、コンドルなど導入



猛獣舎

● **1956年** (昭和31年)

- モンキーホール、小獣舎、オウム舎・水禽舎、カバ舎完成。
- カバ「出目男」(初代、オス)、ホッキョクグマ導入
- ロバの馬車が遊園地に登場
- インドゾウ「摩耶子」死亡

● **1957年** (昭和32年)

- カバ「茶目子」(メス)、ゾウガメ、アリクイなど導入
- 捕鯨船よりエンペラーペンギン、アデリーペンギン受贈
- 動物を計る会開催 (以後継続される)
- グレビーシマウマ日本初の繁殖に成功
- インドゾウ「太郎」(オス)を岡山池田動物園から導入



● **1958年** (昭和33年)

- ペンギン舎、サイ舎完成
- 姉妹都市シアトル市ヘシマリス、インドガン贈呈
- シアトル市よりヤマアラシ受贈

● **1959年** (昭和34年)

- ケニアに動物の買い付け。クロサイ購入

● **1960年** (昭和35年)

- 捕鯨船よりエンペラーペンギン5羽受贈
- ダチョウ舎完成、ダチョウ導入
- 夕鶴の塔建立、神戸市動物愛護協会より受贈
- カバ「茶目子」初めて出産

● **1961年** (昭和36年)

- 開園10周年記念式典を野外劇場で開催



野外劇場

- は虫類舎、ペンギン池完成
- インドゾウ「太郎」檻を破り園内に脱走
- キリン舎より出火し全焼、キリンは救出され無事

● **1962年** (昭和37年)

- インドゾウ「太郎」と「諏訪子」が結婚式

● **1963年** (昭和38年)

- ラクダ舎完成、フラミンゴ導入
- キリン「甲」(メス)、エミュー(諏訪山時代から飼育)死亡
- チンパンジー「チェリー」(メス)誕生、日本初の人工哺育に成功
- 旧ハンター住宅、中央区北野町より園東北部に移設

- ゴリラ「ザーク」(オス)上野動物園から導入



ザークとリリー

- クロサイ日本初の繁殖に成功。

● **1964年** (昭和39年)

- インドゾウ「太郎」堀に転落、クレーン車で救出
- 森林植物園でニホンカモシカ飼育開始
- 人気のロバの馬車、少年の投書により廃止引退
- ベビーハウス、ラマ舎完成
- チンパンジー双子「金」「銀」(いずれもオス)誕生



金と銀

● **1965年** (昭和40年)

- 「新聞少年の像」正面入口広場に完成
- アフリカゾウ「プーラ」(メス)導入

● **1966年** (昭和41年)

- 北京動物園・中国との初交流。フンボルトペンギン贈呈、コウノトリ受贈
- 全国里親大会園内野外劇場で開催、高松宮妃殿下ご来園



- クロサイ「マミー」(メス)死亡

● **1967年** (昭和42年)

- キリン「六」(オス)、トラ「松王」(オス)、アフリカゾウ「プーラ」死亡
- コウノトリ園外に脱走するが捕獲
- 大型インコ盗難
- 類人猿舎完成

## ● 1968年 (昭和43年)

- トラの子(2頭)、マサイキリン「ナガオ」(オス)導入
- 走鳥類4種(ダチョウ、エミュー、レア、ヒクイドリ)揃える(全国初)
- ルリコンゴウインコ日本初のふ化に成功

## ● 1969年 (昭和44年)

- ヒグマ「ママ」(メス)16頭目の出産、日本多産記録樹立
- 大フライングゲージ、フラミンゴ池完成
- ホッキョクグマ導入
- アルゼンチン、ブエノスアイレス動物園と動物交流。ニホンキジ贈呈、レア受贈

## ● 1970年 (昭和45年)

- 動物保護のため桜の夜間開園を廃止
- ピューマ、ジャッカル導入
- 65歳以上の老人の入園料無料化実施
- ホッキョクグマ舎、飼育管理室・調理室完成

## ● 1971年 (昭和46年)

- バーンバリーシープ、カンガルー、キリン、シマウマ各獣舎完成
- 世界初の混血コウノトリ誕生(アジアコウノトリ×シュバシコウ)



- 珍獣シフゾウのオス導入
- サマースクール開講、以後毎年開催
- 蒸気機関車「D51」園内に展示

## ● 1972年 (昭和47年)

- 年6回無料開放日設定
- アカカンガルー6頭を西オーストラリアから導入
- ヒトコブラクダ誕生
- 猛獣舎、講義室完成

## ● 1973年 (昭和48年)

- 飼育倉庫完成
- 中国・北京動物園ヘチリフラミンゴ10羽贈呈

## ● 1974年 (昭和49年)

- 小フライングゲージ、レッサーパンダ舎、白鳥池、インコ舎完成

- チンパンジー「神ちゃん」(オス)誕生、人工保育で育てる。
- フンボルトペンギン1羽深夜に園外へ脱走→捕獲
- レッサーパンダ2頭導入



## ● 1975年 (昭和50年)

- モンキーホールのサル山閉山
- ゴリラ「ザーク」体重285kg、世界一に、ギネスブックに掲載
- コウノトリ舎、キジ舎、新猛獣舎完成
- 双子のチンパンジー「銀ちゃん」死亡

## ● 1976年 (昭和51年)

- チンパンジー「ジョニー」に初孫誕生
- 中国・天津市との初の動物交流。マサイキリン贈呈、タンチョウ、オオヤマネコ受贈
- アムールトラ「サーナ」(オス)アメリカ・サンディエゴ動物園から受贈

## ● 1977年 (昭和52年)

- アムールトラ「ナディア」(メス)カナダ・トロント動物園から受贈
- 北園獣舎と高架観覧通路完成



- 天津動物園へマサイキリン贈呈
- 珍鳥シロフクロウ導入
- ヨーロッパフラミンゴ人工ふ化、育雛に成功。日本初
- ヒグマ「ポパイ」(オス)老衰で死亡(神戸博より飼育)
- アムールトラ「六ちゃん」(オス)誕生、人工保育。日本初

## ● 1978年 (昭和53年)

- 毎週「水曜日」を休園日を設定、
- シアトル・ウッドランドパーク動物園からオセロットをペアで受贈
- 野外劇場跡地に放養式猛獣舎完成
- フラミンゴ2羽脱走。捕獲失敗。
- シロサイ「サブロー」(オス)と「ナナコ」(メス)、ワオキツネザル導入
- チンパンジー「神ちゃん」赤痢発症、6日間休園
- ニホングマ「ジャッキー」(オス)死亡(神戸博から飼育)

## ● 1979年 (昭和54年)

- オオバタン43歳死亡 (諏訪山時代から飼育)
- 大型インコ盗難に遭う
- ソーラーシステム採用の太陽の動物舎 (は虫類と夜行性動物) 完成
- 中国天津動物園へカバ、チンパンジーを贈呈

## ● 1980年 (昭和55年)

- シアトル・ウッドランドパーク動物園へシロエリオオヅル贈呈
- クロハザル舎、ミミキジ舎完成
- 中国・天使動物園から、クロハザル、シロミミキジ受贈
- 動物病院、飼育管理室、飼料倉庫完成
- ミシシッピーワニ42歳で死亡 (諏訪山時代から飼育)
- 天津動物園へヒョウ、ボウシインコ、カバ贈呈
- ラトビア共和国リガ市動物園からビーバー受贈

## ● 1981年 (昭和56年)

- 開園30周年記念式典開催。動物日時計完成、その下にタイムカプセルを埋める。
- ポートピア'81にジャイアントパンダ2頭を天津から借用、王子・天津動物園共同飼育チームで飼育管理に当たる
- ゴリラ「健太」(オス)「康子」(メス)を導入
- 天津動物園にキリン、ラム各贈呈
- シンリンオオカミ導入



ポートピア'81でパンダをご覧になる美智子妃

- アジアコウノトリ「コウちゃん」くちばし破損のため、人工くちばしで再起、話題になる。



## ● 1982年 (昭和57年)

- 旧ハンター住宅庭園を開放開始。内部公開も年3回実施。
- 韓国・竜仁農園と動物交流。マサイキリン2頭贈呈、シフゾウ2頭受贈
- ラトビア・リガ動物園へニホンザル (多摩動物園産) 贈呈

- 中国・天津動物園へカラカル、ピューマ、チンパンジー贈呈

## ● 1983年 (昭和58年)

- ヒグマ「ママ」死亡 (神戸博から飼育)
- フラミンゴ1羽脱走、淡路島で保護
- 中国・天津動物園からレッサーパンダ、ミミキジ、アオミミキジ受贈
- 北園レッサーパンダ舎完成
- ゴリラ「ザーク」死亡
- フラミンゴ自然ふ化に成功
- 中国・天津動物園へカンガルー4頭、フラミンゴ10羽贈呈
- チンパンジー「神ちゃん」死亡

## ● 1984年 (昭和59年)

- 中国・天津動物園から国内初の「果下馬」を受贈
- 中国。天津動物園と王子動物園が友好動物園と締結、調印式開催

## ● 1985年 (昭和60年)

- 中国・天津動物園へカラカル3頭贈呈
- グリーンエキスポ'85開催。天津市よりオスメス2頭のキンシコウを借用、王子・天津動物園共同で飼育管理に当たる
- カバ「2代目出目男」が入園者のゴムボールにより腸閉塞で死亡
- 中国・天津動物園へキンシコウ返却。コモンリスザル10頭贈呈

## ● 1986年 (昭和61年)

- ラトビア・リガ市動物園からヨーロッパカワウソ受贈
- リガ市動物園へコモンリスザル10頭贈呈
- 中国・天津動物園へマサイキリン、ヒョウ贈呈
- 動物科学資料館併設のカワウソ、ペンギン舎完成。
- フタクビナマケモノ、ナマケグマ、コモンツパイ導入
- カバ「三代目出目男」来園
- 天津動物園からタンチョウ受贈

## ● 1987年 (昭和62年)

- 動物科学資料館完成。記念式典及び一般公開



- 動物絵画教室開催（以後毎年開催）
- アビシニアコロブス、ショウハナジログエノン、アカエリマキキツネザル、グリーンイグアナ導入
- 白鳥池跡にフラミンゴ池完成

### ● 1988年（昭和63年）

- ユキヒョウをスイス・バーゼル動物園より導入
- 天津動物園と動物交流。ユーラシアカワウソ、アジアコウノトリ受贈、ワオキツネザル、マントヒヒ、ルリコンゴウインコ、ベニコンゴウインコ贈呈

### ● 1989年（平成元年）

- 園西側の旧児童文化会館敷地を園内にいれ、「動物とこどもの国」着手
- 日本動物園水族館協会からフラミンゴの繁殖技術に対して表彰を受ける
- コアラ導入に際して鹿児島及び神戸市内でユーカリ栽培開始
- アマチュア動物写真コンクール開催、以後毎年開催
- 天津動物園へマンドリル、オオバタン、ナナクサインコ贈呈

### ● 1990年（平成2年）

- 北京動物園へフラミンゴ10羽贈呈
- 新中型猛獣舎、中型サル舎 改造完成
- 天津動物園からウンピョウ、マヌルネコ受贈



- 天津動物園へマサイキリン、シロサイ贈呈

### ● 1991年（平成3年）

- 開園40周年記念誌、ビデオ「諏訪子と共に」を製作
- キンシコウの日中共同飼育繁殖研究の調印式が天津市で開催
- 天津動物園からマヌルネコ1頭受贈
- コアラ飼育研修のため職員2名、オーストラリア・カランビン保護区へ派遣
- (社)日本動物園水族館協会 第4回種の保存委員会拡大会議、当園で開催。同協会総裁の秋篠宮殿下ご来園

- 「動物とこどもの国」完成、オープン式典開催



- コアラ贈呈式開催、市長出席
- 朝鮮民主主義人民共和国へアカカンガルー贈呈

### ● 1992年（平成4年）

- 北京頻危動物馴養繁殖センターよりオスメス2頭のキンシコウ借用。日中共同研究開始
- オーストラリア・ブリスベン市カランビン保護区からコアラ2頭受贈
- 朝鮮民主主義人民共和国からコウライキジ、ヤツガシラアカツクシガモ、オシドリ受贈
- 天津動物園へユキヒョウ贈呈
- シアトル・ウッドランドパーク動物園へニホンカモシカ、タンチョウ贈呈
- ゴリラ「康子」種保存事業のため京都市動物園へ貸与

### ● 1993年（平成5年）

- 北京頻危馴養繁殖センターへフラミンゴ20羽贈呈
- 新アシカ池完成。オープン式典開催
- キンシコウ「愛愛」(メス)誕生（中国以外で世界初）
- シアトル・ウッドランドパーク動物園からボブキャット受贈
- 天津動物園へレッサーパンダ、アカエリマキキツネザル贈呈
- キンシコウの日中共同飼育繁殖研究を10年間延長、調印

### ● 1994年（平成6年）

- インドゾウ「太郎」死亡
- 北京頻危馴養繁殖センターからキンシコウのメス「点々」追加借用
- 新ホッキョクグマ舎完成、オープン式典開催
- 天津動物園へマサイキリン、ワオキツネザル、ユキヒョウ贈呈
- 天津動物園からウマグマ受贈

### ● 1995年（平成7年）

- 1月17日、阪神・淡路大震災発生。園内は救援活動の自衛隊駐屯基地と通信基地になる。動物園ホールは遺体安置所になる（65日間休園）。



- 3月1日から「動物とこどもの国」を小学校、幼稚園などの課外事業として無料開放
- 3月8日、自衛隊キャンプ撤退
- 3月23日から未まで園内無料開放
- 4月1日から平常通り再開
- キンシコウ「愛愛」死亡
- 無料休憩所「杜の館」改修完成。
- インドゾウの「マック」(オス) スイス・キンダーガーデン動物園から導入。
- キンシコウ「勇勇」(オス) 誕生
- 熊本動物園からシロオリックス受贈

### ● 1996年 (平成8年)

- キンシコウ「鈴鈴」(メス) 誕生
- ラトビア・リガ市動物園からインドゾウ「ズゼ」(メス) 受贈。歓迎式典開催



- 北京頻危動物馴養繁殖センターへエミュー、コモンマーモセット贈呈
- リガ市動物園へニホンザル4頭、ショウジョウトキ8羽、コンゴウインコ2羽贈呈

### ● 1997年 (平成9年)

- ラトビア・リガ市動物園へタンチョウ、ワオキツネザル贈呈
- 震災で破損した「旧ハンター住宅」の復旧工事完了、公開再開
- 天津動物園からマヌルネコ受贈
- キンシコウの子「勇勇」北京頻危動物馴養繁殖センターへ里帰り
- 中国出土品「兵馬俑」の実物大レプリカ8体受贈、設置
- インドゾウ「諏訪子」など、敬老の日「長寿動物へのプレゼント」開催、以後毎年開催

### ● 1998年 (平成10年)

- 29年ぶりに「夜桜通り抜け」再開。無料で3日間開放、以後毎年開催
- 遠足児童を対象に教育支援事業「動物鳴き声クイズ」開始。
- 大人のための動物園講座開講。以後毎年開催
- 天津市との友好都市提携25周年記念として、オオカンガルー、チンパンジー贈呈。両市長出席し贈呈式開催
- 神戸市動物愛護協会より動物愛護の像「なかよし」受贈

### ● 1999年 (平成11年)

- 王子動物園のデザイン広告市バスが市内を走る、出発式開催
- ジャイアントパンダ共同研究の意向書調印
- 不正輸入されたオランウータン4頭、テナガザル1頭を緊急保護
- ジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究の協議書に調印

### ● 2000年 (平成12年)

- 保護されたオランウータンなどインドネシアへ返還
- 「円形猛獣舎」完成、完成式開催
- パンダ館完成
- 来園するパンダの愛称が一般募集の結果、オスは「興興(コウコウ)」、メスは「旦旦(タンタン)」に決定
- ジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究発足式、パンダ館オープン式典開催、一般公開



### ● 2001年 (平成13年)

- マサイキリン「ミライ」(メス) 誕生
- 中国・上海野生動物園へフラミンゴ50羽贈呈
- キンシコウ「龍龍」(オス) 誕生
- ジャイアントパンダ日中共同飼育繁殖研究発足一周年記念式典
- ライオンに、3つ子の赤ちゃん誕生

### ● 2002年 (平成14年)

- 天津動物園からマヌルネコ、シロミミキジ、アオミミキジ、モモイロペリカン受贈
- ジャイアントパンダ、観覧者300万人のお祝い
- キンシコウ日中共同飼育研究の継続決定
- キンシコウの「タイホウ」(メス)の死亡
- カバの「茶目子」の死亡。日本で2番目に長寿だった
- 入園者5,000万人達成のお祝い
- ジャイアントパンダ、初代「興興」のお別れ会
- ジャイアントパンダ、2代目「興興」の歓迎会

### ● 2003年 (平成15年)

- 「カバ舎」リニューアルオープン
- ニシローランドゴリラ「康子」の死亡
- 北海道の旭山動物園よりカバ「ナミコ」(メス)のお嫁入り



## ● 2004年 (平成16年)

- キンシコウ中国へ返還、式典開催
- 栗林公園動物園閉鎖に伴い動物受入れ。  
ニシローランドゴリラ2頭、ハッカク1羽、  
オジロワシ1羽、ジャガー2頭
- 国内初のインドゾウ(メス)誕生
- 子ゾウの命名式開催。「モモ」と決定



- ゴリラ来園記念講演会「ゴリラに学ぶ、自然に学ぶ」の開催
- インドゾウ「モモ」、骨折のため一般公開中止

## ● 2005年 (平成17年)

- 動物サポーター制度、年間パスポート発売開始
- インドゾウ「モモ」死亡

## ● 2006年 (平成18年)

- アムールトラ「連連」(メス)死亡
- ユキヒョウ「ティアン」(オス)フランスの動物園  
(ル・フェラン・ドノー)より受贈
- クールスポット(ドライミストとクールシャワー)オープン
- ZOOキャンプ開催

## ● 2007年 (平成19年)

- コアラ「モモジ」(オス)死亡
- 園内リニューアル(アメニティトイレ完成、遊園地・園内メイン通路ソフト舗装に改修)
- ホッキョクグマ「ドボンタイム」の実施(以後週3回実施)
- インドゾウ「ズゼ」、オスの子を出産
- 北園新観覧通路完成、竣工記念式典
- 子ゾウの愛称募集、「オウジ」と決定・一般公開開始

## ● 2008年 (平成20年)

- インドゾウ「諏訪子」死亡(65歳)。お別れ会実施



- ジャイアントパンダの「旦旦」出産。その後、4日目に赤ちゃん死亡
- インドゾウ「オウジ」1歳の誕生日会。その後骨折のため公開中止

## ● 2009年 (平成21年)

- オランウータンバレンタインが赤ちゃん(オス)出産。当園で初めて繁殖に成功(人工哺育)



- オランウータンの赤ちゃんは「ムム」に名前募集の結果決定
- カバの「ナミコ」赤ちゃん出産。
- マサイキリン「神平」(オス)死亡
- 「きりんテラス」完成、竣工式典開催



- カバの赤ちゃん「ナナミ」に名前募集の結果決定

## ● 2010年 (平成22年)

- ジャイアントパンダ日中共同研究延長の調印
- マサイキリンの「シゲジロウ」(オス)アドベンチャーワールドより来園
- 夏休み自由研究サポート教室開催(以後毎年開催予定)
- ゴリラ舎「ジェットミスト」完成
- カバの「ナナミ」1歳の誕生日会



- ジャイアントパンダ「興興」死亡。献花式実施



- (社)日本動物園水族館協会 第58回動物園技術者研究会開催。秋篠宮殿下出席のため来園

## ● 2011年 (平成23年)

- 東日本大震災発生のため開園60周年記念式典中止

# 私のメモリーZOO

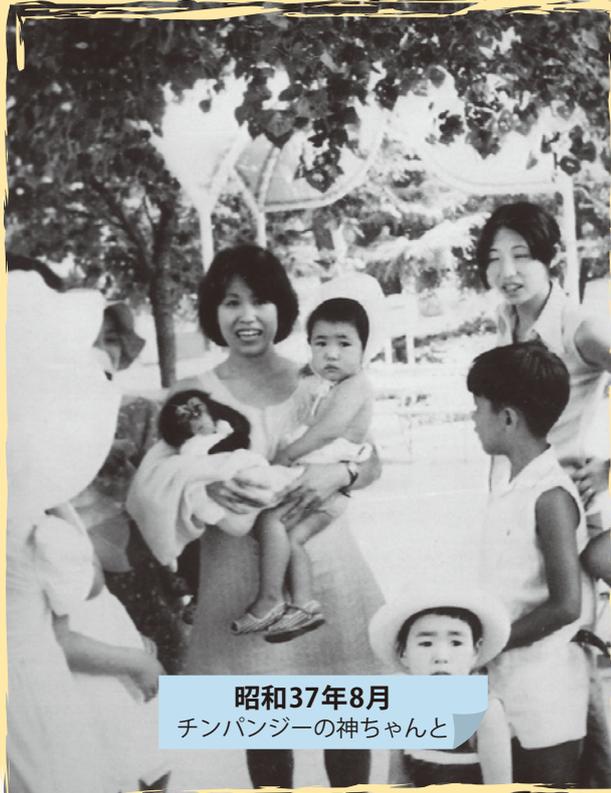
王子動物園開園60周年を記念して来園者の方の思い出写真を募集したところ、たくさんの応募がありました。園内のペンギンホールで掲示していましたが、その中からいくつかの作品をご紹介します。



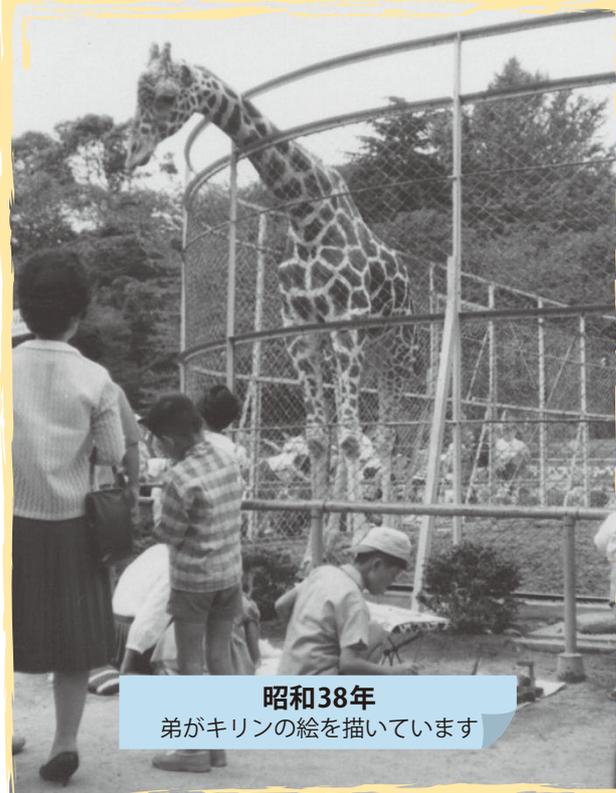
昭和28年両親と来園  
私は8カ月頃



昭和31年頃  
家族全員でよく桜咲くころ  
来ました



昭和37年8月  
チンパンジーの神ちゃん



昭和38年  
弟がキリンの絵を描いています



昭和55年  
母と！



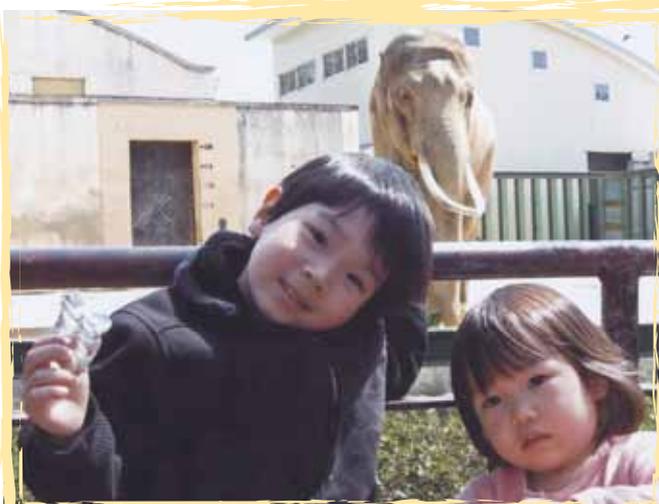
昭和55年9月  
26年ぶりに来ました



平成9年  
10年以上前の猿舎の所に人間の橋がありました



平成18年10月3日  
どうぶつだいすき！1歳



平成20年3月  
いっしょに写真に写りに歩いてきてくれました。  
動物園大好き ニッコリ



# トピックス・イベント



4月1・2・3日

## 夜桜通り抜け

毎年恒例のイベントですが、今回は最終日が天候に恵まれ、3日間で53,348人の方が訪れました。



6月27日

## 第24回大人のための動物園講座 ～大人の飼育体験～

大人の飼育体験も今回で3回目を迎えました。普段、入ることのできないバックヤードや調理場で獣舎清掃やエサ作りを体験していただきました。



7月21日

## ジャイアントパンダ 日中共同研究延長式典

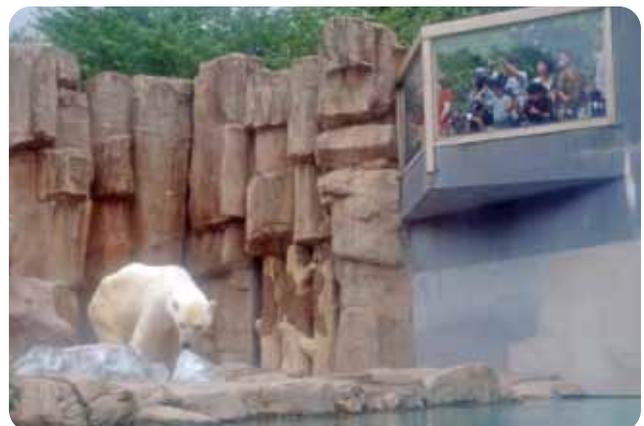
2000年から10年間だった研究期間を、2015年まで延長することになり、記念式典を行いました。中国古箏奏者の伍芳さんをお招きし、記念演奏会もしました。



7月18・19日

## ホッキョクグマに氷を プレゼント

「アイス」と「みゆき」の2頭に好物の入った大きな氷をプレゼントしました。



7月24・25・26・27・29・30日

## 第40回サマースクール

事前募集した小学生がバックヤード見学や獣舎清掃、エサ作り体験などをしました。



8月7・8日、21・22日

## 第5回ZOOキャンプ

園内に泊まり、夜間の動物たちの様子や、早朝の動物園の様子を飼育員と共に見学しました。



## ジャイアントパンダ「興興」死亡

9月9日にジャイアントパンダの「興興」が死亡しました。メスの「旦旦」との間で人工授精をするための麻酔からの回復中に息を引き取りました。14才でした。「興興」は1995年(平成7年)に中国で生まれ、2002年(平成14年)に来園しました。

翌日から園内に献花台とメッセージノートを設置したところ、連日たくさんの方が訪れました。また、10月16日には献花式を行い、約500名の方が訪れ、興興との最後のお別れをしました。



10月21～23日

## (社)日本動物園水族館協会 動物園技術者研究会

全国の動物園・水族館から約100名の技術者が集まり、研究発表を行いました。また同協会総裁の秋篠宮殿下が御臨席され、22日には王子動物園を御視察されました。



11月3日

## 動物の体重をはかる集い

メスのインドゾウ「ズゼ」とオスのケツメリクガメ「よしはる」の体重をはかりました。「ズゼ」は昨年より173kg増えて4,155kg、「よしはる」は16kg増えて56kgでした。



11月10日

## カバの「ナナミ」がお嫁入り

2009年8月11日に生まれ、1歳になったメスのカバ「ナナミ」が鹿児島県平川動物公園のオスの「龍馬」の元へお嫁入りしました。



12月12日

## 干支の引継式

平成22年の干支「トラ」の着ぐるみから23年の干支「ウサギ」への引継式をしました。年末の恒例行事です。





2010年4月17日、おばあちゃんのシタツンガ「サツキ」が11年ぶりに6度目の出産をしました。

今年の2月頃に「どうも、お腹が大きいのでは？」と感じ、出産の準備も整えましたが、4月になっても何も無いので「本当に産むのかな？」と冗談で言っていたら見る見る乳首が大きくなってきて、陰部も腫れ、「いつ産んでもおかしくないぞ。」という雰囲気になってきました。4月17日の閉園時間間際に様子を見に行くと小屋の中でおしっこをしている様子でした。「それにしてもおかしいなあ。」と思い、後ろに回って見てみると陰部から粘液が出て破水していました。それから、あれよあれよと言わんばかりに足が出て、15分もしないうちに新しい生命が誕生しました。誕生したというより、まさに産み落とされたという感じがします。

キリンやゾウなどの動物以外では出産の瞬間に立ち会えることは少ないので、それと比べるとおばあちゃんなので大変心配していましたが、安産で良かったとホッとしました。

「さあ立ち上がって、授乳が確認できたら安心して帰れるぞ。」と思い、遠くから見ていたのですが、一向に立ち上がる気配はありませんでした。母親は一生懸命子供をなめて「早く立ちなさいよ。がんばれ。」と言っているようです。それに応えようと赤ちゃんも必死でもがいていますが、立ち上がることができません。そんな様子を見ていて、赤ちゃんを取り上げるのは大変つらかったのですが、皆で決めていた時間がやってきました。

私はトラックで待っていましたが、取り上げてきた飼育員が赤ちゃんを抱え、「これは立たれへんはずや。」と言い、すぐに動物病院に運びました。病院の明るい所で見ると、ナックリングという関節が逆に曲がっている状態で、とても自力で立てる状態ではありませんでした。その時、ベテランの飼育員が「昔、キリンでもこんなことがあったけど治ったんや。」と言いました。また、別の飼育員も「腱が伸びたら治るんや。こんな立派な体で産まれてきたんやから。」と言い、わらで足をこすり、



マッサージを始めました。「よし、他の者はこの子が安全に暮らせる部屋を作るぞ。」と、みんなで作業を始めました。終わったのは夜の11時ごろで、その日は2人が泊まりこみ、交替でミルクを与えました。

生まれた赤ちゃんは3,250gの女の子で、アニメ「アルプスの少女 ハイジ」に出てくる、立つことのできなかつた女の子のように、いずれは立てるようになって欲しいと思い「クララ」と名付けました。

当園ではシタツンガの人工哺育は過去にも例があり、その時は比較的順調に育つたらしいのですが、今回はそう簡単にはいきませんでした。自分でしっかり立ち上がることができないので、哺乳瓶にうまく吸い付けず、授乳に大変時間が掛かり、量も少ししか飲んでくれませんでした。「このままではダメだな。」と焦っていたら、たまたま動物病院にあったブタ用の先の長くて硬い乳首を試してみたところ、とても上手に飲めるようになり、授乳に関しては問題がなくなりました。

「あとは足が治れば・・・。」 午前と午後には日

光浴。そして私たちに時間があれば足のマッサージをしました。獣医さんもいろいろと調べてくれて、3日目からはテーピングで両方の後足を固定することにしました。その間に獣医さんと試行錯誤をしながら特製ギブスを作り、6日目から両方の後足に付けました。ギブスを付けていると、弱々しいながらも自分で立ち、歩くこともできます。体重も順調に増えてきました。「どうか、治るように。」と毎日祈るように授乳しました。





生後12日目にギブスを外してみると、逆に曲がっていた足首が普通の状態に戻っていました。まだ両方の前足は曲がっていましたが、ぎこちないながら力強く走り回りました。「やったー！！」とみんな喜び合いました。

「サツキ、もう少し待っててよ。」生後25日目から、群れに戻すためにケージに入れ、お見合いを始めました。そして34日目からは日中、同居させることにしました。最初はすごく怖がってお母さんの「サツキ」が近寄ってきても、走って逃げていました。そんな中で昨年12月に初めての赤ちゃんを生子、立派な母親になった若い「アスカ」がとても心配してくれて、孤立していた「クララ」に近づいて、よくコミュニケーションをとってくれました。完全に同居を始め6月8日(生後53日目)になると、4頭が2組の親子に分かれていることが多いなあと感じるようになりました。そして、母親の「サツキ」が「クララ」のことをよくなめてあげている様子を見るようになりました。

『「サツキ」「クララ」、本当に良かったね。』

今回の人工哺育で、私は不安いっぱいの気持ちでしたが、他の飼育員や獣医さんの姿、そして何よりも毎日を懸命に生きる親子の姿を見て、飼育員として大切なことを学ばせてもらいました。

(坂本健輔)





当園では、12頭のフサオマキザルを生息地の違いで2グループに分けて飼育展示をしています。2010年3月14日に9頭からなるグループのメスが3年ぶりに妊娠をし、男の子を出産しました。

この母親は、今までに何度も出産育児を行ってきたベテランのメスです。今回の妊娠中も無事に育ててくれたらと願っていたのですが、その時期に園内での改修整備工事が多く重なってしまい、無事に出産はしたものの、グループの中の上位にあたるメスに子供を奪われてしまいました。

「あれ、妊娠していたメスと違うやろ?」「何で抱いているんや?」さあ、大変です。お乳が出るはずもないメスに生まれたての赤ちゃんが抱かれています。このままでは赤ちゃんの命にかかわります。早速、担当飼育員を集めて、赤ちゃんの奪還作戦を実施しました。

赤ちゃんとそれを抱いている上位のメス、そして、

本当の母親の3頭を同時に捕獲し、すぐに赤ちゃんを母親に抱かせる工夫をしました。しかし、丸1日赤ちゃんを抱いていなかった母親は、一向に赤ちゃんを構う様子もなく、逆に離そうとする行動が見られました。

赤ちゃんの体温の低下や衰弱が懸念されたので、一時中断して保温し、ベテラン飼育員が人工乳を赤ちゃんに与え、体力の回復を待ち、再度、母親との同居を試みましたが、やはりうまく行きません。

「人工哺育しかないか」と、「アロ」と名付けられた赤ちゃんの命を優先に考え、飼育員が育てることにしました。それでも、最初に母親の初乳を飲ませておけば、免疫力や栄養素が与えられ、病気などから守ることができます。再度、母親を保定し、赤ちゃんに初乳を吸わせてから、人工哺育に切り替えました。

人工哺育に切り替えるにあたり、最初はベテラン飼育員が24時間対応を行い、その後は朝7時から夜の8時まで2時間おきに1日7回ミルクを注射筒で与え、



体重も1日2回量り、成長を観察していきました。

サル類の赤ちゃんは、成長過程で母親に抱きついたままです。ですから、ミルクの時間も決まっているわけではなく、お腹が少しすいたら少し飲む、またすいたら飲むという授乳で成長していきます。しかし、飼育員は、他にも担当動物の世話があるため、赤ちゃんだけに付きっきりでというわけにはいきません。そこでミルクの時間を決めて授乳させる方法を赤ちゃんに慣れてもらう事からのスタートとなります。しかし、これが一苦勞です。最初は、注射筒にゴムチューブをつけた物で10mlずつ与えていたのが、徐々に15mlと増え、10日目からは小動物用の哺乳瓶での授乳も可能になってきました。

しかし、体重の伸びが少なく、また本来、母親に抱きついて生活するはずの強い手足の力も弱く、タオルにさえぶら下がり続けることが出来ません。

体重の伸びと体力の回復を期待し、ミルクのタンパク質の含有量を若干上げ、その分の消化吸収を配慮し、授乳時間を少し空けて1日5回と変更して観察しました。

結果、このことが功を奏して、弱かった手足も徐々につかまれるようになり、飼育員の腕につかまる運動も取り入れていきました。

30日目頃には、フラフラながらも四肢で体を支えられ、声のする方を向いて反応するようになり、40日目

を過ぎる頃には、目でしっかりと人を追うようになりました。また、固形食をミルクでやわらかくしたのも口にするようになり、成長も回復してきました。

50日目あたりでは、最初に使っていた保育箱が狭くなり、職員手作りの大きなものに変更しました。また、担当飼育員の腕にぶらさがって散歩にも行くまでになりました。

生まれた時は体重250gで、体の長さも16cmと小さかった「アロ」も、生後170日目には1kgを超え、色々なものに興味をもち、やんちゃぶりも板についてきました。

184日目にやっと離乳に成功しましたが、まだまだ甘えん坊です。

今回、初めての人工哺育をベテラン飼育員に一から教わり、そして、この小さな命から数多くの事を学び、大切な経験が出来ました。これからも、精一杯成長していく「アロ」から学ぶことや、教えられることがたくさんあると思います。

人工哺育のため数多くの課題もありますが、元気で健康に育ってくれることを願っています。皆さんも、「アロ」に会いに来てくださいね。

(外尾美絵)



当園のゴリラは、2004年に閉園となった四国の栗林動物園からやって来ました。その動物園では室内での飼育が中心であったため、ゴリラ達は時折屋上にある屋外展示場に出る程度でした。当園に来て土で覆われた広い屋外展示場で日中を過ごすことになり、草・木になじみの無かったゴリラ達は興味津々でした。ただし、夏の神戸の暑さにはこたえたようで、当園にやってきてから毎年、オスの「ヤマト」は夏バテの症状が観察されました。このため、お盆を過ぎた頃から日中でも室内の冷房の効いた部屋で過ごしていました。

そこで、夏を快適に過ごさせるため、屋外運動場に霧を噴射して温度を下げる「ドライミスト」を導入しました。

工事は綿密な打ち合わせを何度も行い、どの場所からどのようにミストを噴射すれば、効果的か検討し、また工事中ゴリラ達へのストレスなどの悪影響もできる限り軽減できるように配慮しました。工事は夏の酷暑までの完成を目指し、梅雨明けから一月ほどの工事となり、その間ゴリラ達が室内での生活となるため急ピッチで進められました。

完成後屋外運動場にゴリラ達を放し、ドライミストを稼働させたところ、当初「ヤマト」は上からと擬木から噴出すミストに戸惑いを見せ、離れてしまいましたが、徐々に慣れたのか、日を増すごとに噴出口に近づいてきました。しかし、肝心のミストが届く場所には居着こうとしません。心配してゴリラを寝室に入れた後、日中にゴリラが居た場所に行くと、なんと、冷たい風が植栽の間を通り、一番気持ちよく過ごせる場所でした。ゴリラ達は、自分で一番良い場所を見つけていたのです。

その結果、今年は夏バテの症状も観察されず、今までで最高に酷暑だった夏も快適に過ごしてくれました。来年の夏もドライミストがゴリラ達に快適な夏をプレゼントしてくれると思います。

(川上博司)





王子動物園の猛獣舎にいる動物は毎年1回、春と秋のどちらかに健康診断をします。この健康診断は、人と同じように体に悪いところはないか、体はどの程度大きくなっているか、また病気に対しての予防接種などを行います。今年の6月にもライオンやトラなどの健康診断を実施しました。そのときの様子を写真を交えて説明したいと思います。

2010年6月16日に健康診断を行いました。その前日の夕方より健康診断の準備は開始されています。受診する動物達は健康診断前日より絶食、絶水です。王子動物園の猛獣は週に1回減食日があります。減食日は大型の猫類のライオン、トラでも肉一切れだけとかなりますが、全く食べられないことはありません。ですから、絶食、絶水の日はかなり動物達に恨めしそうな目で見られます。

しかし、これは次の日の麻酔のための用意です。ここで餌をあげてしまうと、麻酔中に誤嚥ごえん(のどの気管に

誤って食べ物が詰まってしまう窒息等の症状を引き起こしてしまうこと)など危険な状態おちいに陥ってしまうからです。飼育員も心を鬼にして、グッと我慢します……。

ライオンなどは、大きな咆哮で威嚇ほうこうしますし、トラは拗ねすて怒って部屋の一番奥で目だけをランランと輝かしてジッとこちらを見ている。ついつい、猛獣に対して「ごねんな。でも、君のためだから」と言い訳をしてしまうことがあります。

健康診断当日、朝から猛獣舎のバックヤードは変な空気に包まれています。毎年の事ですから受診者の猛獣もわかっています。飼育員に怒って吼ほえる個体もあれば、部屋の一番隅(麻酔をする時に困る場所)で怒っている個体……。

そして、健康診断の準備が整うと受診動物を落ち着かせ(これには、てこずりますが……)て、麻酔をします。麻酔は吹き矢を使用します、これは獣医が担当し



ます。麻酔を打つ作業は獣医、飼育員が連携しておこないますが、麻酔注射をする場所は受診動物のお尻か太ももが理想的なので、猛獣の気を引く係を飼育員がします。この気を引く係は、健康診断後しばらく受診動物に嫌われるので、一番損な役回りです。

麻酔が効いているかを確認してからオリの扉を開け検査する動物を出しますが、この作業が一番緊張をする瞬間です。もし麻酔の効きが悪かったら…手負いの猛獣ほど怖いものはありませんから慎重に慎重を重ねて確認し作業に入ります。オリの中から猛獣を出すのは人力です。数人がかりで出し、受診動物を検査台に乗せ、吸入麻酔機を装着します。

そして検査開始です。難しい検査、治療がある時以外は2チーム(身体測定するチームと投薬採血するチーム)に分かれて実施します。身体測定は、体重、頭胴長(人の身長と同じと思ってください)、尾長(尻尾の長さ)を測ります。投薬採血は、病気にならないようにワクチンを打ったり、血液検査のために血を採ったりします。また、人と同じように虫歯はないかを調べたり、歯石がついている場合は取ってあげたりなど、歯の検査もします。

2チームの作業は同時進行で行われ、ほぼ同じに終わります。その後は、動物によって色々なケアをしま

す。ケアの内容は、爪の手入れ、耳掃除、毛の手入れ(ブラッシング、縮れ毛のカットなど)、身体の洗浄(この作業が一番大変ですがきれいになった個体を見ると嬉しくなります…臭い付けや土浴びのため一日で汚くなりますが…泣)等等、気がついたところはずべてやります。

検査、ケアが終わったら猛獣をオリに戻し麻酔を覚ます薬を注射して1頭目が終わります。一日に2頭を検査する時間しかないので、何週間もかけてします。何週間もかかるのは、動物園の閉園日にしか出来ないためです。

このように、飼育員は常日頃から健康管理には気を使っています。もし、春や秋に来園したときに猛獣達がいつものときより少し落ち込んでいたら健康診断の後かもしれません。なぜなら、人と同じように診断結果が悪かったらまた、痛い注射があるわけですから猛獣たちも気が気ではありません。

そんなことを考えながら、ゆっくり猛獣達を観察してください。

(大山裕二郎)



1997/6/30：静岡市立日本平動物園より  
BL 借入のため来園

繁殖対象  
個体

● 雄：グアポ ● 年齢：14 歳



2004/3/25：ガイアナ共和国より来園  
野生由来

● 雌：エジャ ● 年齢：推定 7 歳以上  
(2011 年 2 月死亡)

当園でオオアリクイが飼育され、早いもので17年近く経ちます。先代の「ポニート」と「マツ」の後、1997年よりオスの「グアポ」を、2004年よりメスの「エジャ」を飼育して繁殖に向け努力していましたが、残念ながら「エジャ」は2011年に死亡しました。

ところで、オオアリクイは世界24国89園の動物園で、オス120頭・メス126頭の計246頭が飼育管理されています。また、オオアリクイを保有している動物園は、ブラジルを除くと北米やヨーロッパ、アジアなどの、オオアリクイの生息地である中南米とは異なる気候の国に点在しています。日本では、7か所の動物園で、オス8頭、メス7頭の計15頭が飼育管理されていますが、この飼育頭数は、アメリカ（31園でオス38頭・メス38頭）、ブラジル（16園でオス31頭・メス35頭）、ドイツ（8園でオス12頭・メス16頭）に次いで、世界で4番目に多いです。このことから日本におけるオオアリクイの飼育成績の向上が、世界のオオアリクイの繁殖や保存において重要な役割を果たすと考えられます。

当園で飼育中のオオアリクイ「エジャ」はこれまで3度妊娠しましたが、3度とも流産しました。

1度目は2008年1月26日で、交配日は確認できませんでした。その後、メスの安静の為、1か月間分離飼育をしていましたが、容態も落ち着いてきたので3月より同居を開始しました。今回からは採尿を行い、発

情ホルモンと黄体ホルモンの濃度を測定しました。2度目は2008年8月22日で、この妊娠に至る交配は2008年4月15日と推定できました。雌の陰部より雄の精液を採取し精子も確認して母体にストレスを掛けないよう分離飼育に切り替えましたが、妊娠4ヶ月で安定期に入る前に2度目の流産をしてしまいました。8月に黄体ホルモン値の低下は確認されましたが、このこととその後起こる流産の因果関係は不明です。その後、黄体ホルモン製剤の投与によりホルモン値を維持し、室内の養生（子が頭などをぶつけないよう）、尿の採集率を向上させてホルモン値の変動を把握し、夜間カメラ撮影による観察などの対策を行って、10月より同居を始めました。

3度目の流産は2009年4月12日で、この妊娠に至る交配は2008年12月2日と3日と推定しました。採尿マットでの採集も順調で、投薬のおかげで黄体ホルモン値も安定し、子宮運動抑制薬の投薬も実施しました。冬場はあまり外に出ず室内で過ごし、極寒時は室内に隔離しましたが今回も妊娠4ヶ月での流産となりました。

今後新たなメスを導入した際には、尿中ホルモンの計測を定期的かつ長期的に行い、オオアリクイの繁殖生理の解明を行うと同時に、出産時期を考えた交尾や体調づくりを考え、習慣性流産に注意をし繁殖に向けて全力で取り組みたいと考えています。

(佐藤公俊)

# 動物教室から

夏休み自由研究サポート教室に参加して……王子動物園附属カバ山小学校 6年 ゾウ野 鼻男

ぼくは、王子動物園の夏休み自由研究サポート教室に参加しました。資料館の先生から、研究の仕方やまとめ方を教えてもらいました。ぼくは、以前から好きだったゾウを研究することにしました。作品ができあがったら、資料館の特別展示室に展示してくれるので、がんばって仕上げようと思います。

## “ゾウのひみつ” 発見!!

調べた期間 2010.7.17~8.31

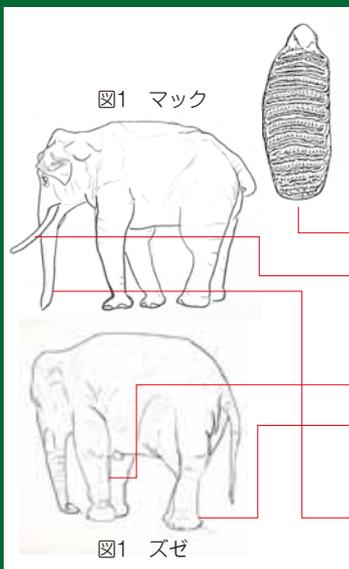
王子動物園附属カバ山小学校 6年 ゾウ野 鼻男

### ① テーマをきめたわけ

ぼくは、前からゾウが大好きだったので、王子動物園のインドゾウのマックとズゼを調べることにしました。

### ② 調べたこと

#### (1) マックとズゼの体の特徴比べ



体の部分	マック	ズゼ
体の高さ	3m以上ある	マックより小さい 3mはない
体重	わからない*1	3,982kg (2009.11.1)
歯	上あごの門歯が伸びてキバになる。下あごには門歯はない。犬歯はない。大きな臼歯は4本（上あごの左右に1本、下あごの左右に1本。一生に5回生え変わる。）*2	
キバ	オスはある。メスは見られない。マックの右のキバが短い。年末におれたんだ。でも、まだ伸びるので心配はないようだ。	
足	太い。指はどちらも5本あるが、ひづめは前足は5本で、後足は4本だ。アフリカゾウのひづめは前足が4本で、後足は3本だそうだ。	
鼻	鼻と上くちびるがくっついて伸びたもので、吻（ぶん）という。木を引っかくぐらいの力がある。ピーナッツみたいな小さなものもつまめる。2m以上の長さがある。	

#### (2) えさを食べる様子

体の部分	マック	ズゼ
食べる順番	ニンジンも青草もいっしょに食べている。	ニンジンに先に食べていた。
食べる量	マックのほうが多い。自分のエサを食べ終わると、ズゼのエサを横取りしていた。	マックに取られるので、おいしいエサを先に食べていたのだと思う。



\*1 マックは体重計に乗らないからわからないようだ。

\*2 ゾウの臼歯は、新しい歯が古い歯の後ろかにできて、古い臼歯を前へ押し出して入れ替わる。水平置換という。ぼくたちの歯は垂直置換だ。

(山崎幸雄)



(かわかみ ひろし)

## ミナミシロサイ 奇蹄目サイ科

*Ceratotherium simum simum*



シロサイは、アフリカ大陸に生息しており、ゾウに次いで大きな体を持つ最大級の陸上哺乳類のひとつである。一般にオスの方がメスより体が大きく、体の色は明るい灰色である。

哺乳類であるシロサイは、若い頃は体全体に毛が生えているが、年を取ると毛が抜け落ちていき尻尾の先や耳の縁、まぶた付近にしか毛が残らなくなる。

耳は180度自由に動き、視力はあまり良くないが嗅覚は発達している。鼻先にある前後に並んだ2本の立派な角は前方が長く大きいものでは150cmにもなる。この角は骨でできているものではなく、皮膚が変化したものである。人間で言えば爪に似ている。頭部が非常に大きく首の周辺にコブがある。頭部が重いため、岩などにアゴを乗せて休んでいる姿がたまに見られる。

おっとりとした性格で、主に地面に生えた草を食べるが、犬歯や門歯が無いために発達した口を使って草をむしり取って食べる。

オスは大人になるとなわばりを持つ。その広さは食物の多さと地域によって異なる。一生の間、ほとんど自分が持つなわばりの中で生活する。なわばりを知らせる印はいろいろあり、フンや尿をまいたり、地面を足でこすったり、角で木に傷をつけたりしてなわばりを表現する。

他の動物に対して自分から攻撃をしたりするような事はない、とても優しいおっとりとした動物である。雨が降った後は泥遊びをして、体の熱を冷ましたり、体に付いた寄生虫を落としたりする。

シロサイは一年を通して繁殖行動を行うが、主に夏と秋が最盛期となっている。求愛行動に見られる行動として、オスとメスが互いに追い回したり、角を突き合わせたり、鳴き合ったりする。メスの妊娠期間は、およそ16ヶ月で50kg前後の子供を出産する。大人のシロサイは、ほとんど敵はいないが、子供の頃はしばしばライオンに襲われることがある。寿命は大体45年くらいで、現在シロサイは絶滅危惧種に指定されており、保護対策がとられている。

### 《動物園での一口メモ》

現在、王子動物園ではメスの「ナナコ」を飼育しています。「ナナコ」は1970年に宮崎サファリからオスの「サブロー」(2009年に死亡)と来園しました。「ナナコ」はとても人懐っこくて、よく飼育員に触ってと近寄ってきます。しかし、近年は高齢のためか床ずれによってできた傷の治りが悪く、定期的な治療が欠かせなくなってきました。それ以外は特に身体に問題はなく、食欲も旺盛です。雨上がりの後は元気いっぱい泥遊びしています。

(下田康晴)

## ニホンリス 齧歯目リス科

*Sciurus lis*

ニホンリスは、北海道に生息するエゾリスの亜種とされていたが、近年では別種と考えられている。エゾリスと体型は似るが小型で、体重220~320gくらい、ふさふさとした15cm程の尾を持つ。昼行性で、早朝のまだ薄暗いうちから活動を始める。平地から1,500mくらいの低山の森林にすみ、マツやスギの木立のある地域に多い。本州、四国、九州に生息しているが、本州では関西よりも中部より北の木立のある地域に多い。

ニホンリスの繁殖期は春先から初夏にかけてで、年に2回繁殖することもある。1産4~10子を産む。妊娠期間は38~39日。産まれた子は裸であるが、半月ほどで毛が生え1ヶ月ほどで目が開く。

ニホンリスはタイワンリスに比べて、四肢がやや長く、毛色は夏毛と冬毛で異なる。夏毛では背面が赤褐色になり、耳の先はむきだしで房毛はない。冬になると灰色に衣替えをし、耳の先には房毛が生えて耳を覆う。夏、冬を通じて腹部は白色である。門歯は一生伸び続けるので、硬い物をかじってすり減らす必要がある。

野生ではクリ、ドングリ、クルミなどの堅果や、マツの実などの種子、液果、若葉、つぼみなどの植物質を主に食べるが、昆虫や鳥の卵なども食べるときもある。ニホンリスは戦前には20万匹近く生息していたが、1969年には8万匹にまで減っているといわれている。

日本には現在、リス科の動物がムササビやモモンガを含めて6種類生息している。

## 《動物園での一口メモ》

王子動物園では、現在オス2頭メス1頭のニホンリスを飼育しています。ニホンリスのケージの中には巣箱があり、日中は巣箱の中にいることが多く、姿を見られるのはまれですが、朝の早い時間だと巣箱から出てきていることがあります。また夏場は日中でも冷たい地面や岩の上で寝転んでいることが多いです。

エサは、クルミ、ヒマワリの種、麻の実、ドッグフード、ブドウ、キウイフルーツ、キュウリ、パン、人参、グレープフルーツ、晩生菜、煮干を与えています。

(芦田雅尚)

# 動物の話題



ニューフェイス



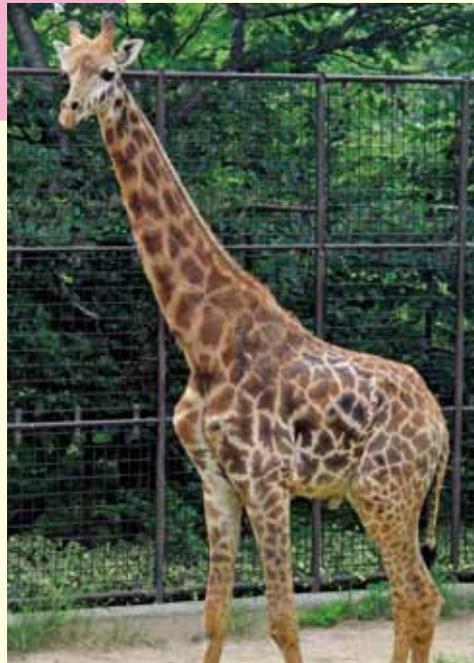
**アムールヒョウ「ポン」**  
(メス・2歳)

2011年1月26日、  
広島市安佐動物公園より



**ジャガー「ローラ」**  
(メス・1歳)

2011年2月23日、  
カナダ  
Elmvale Jungle 動物園より



**マサイキリン「シゲジロウ」**  
(オス・5歳)

2010年6月30日、  
アドベンチャーワールドより

別れ

**カリフォルニアアシカ**  
**「シシマル」** (オス・15歳)

2010年8月12日死亡



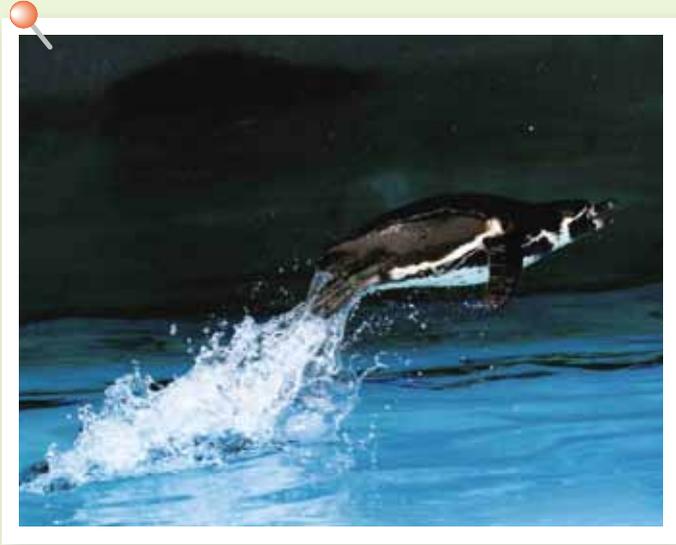
**ジャガー「アントニオ」**  
(オス・21歳)

2010年6月10日死亡



# 第22回アマチュア

特別賞作品 7点  
(敬称略)



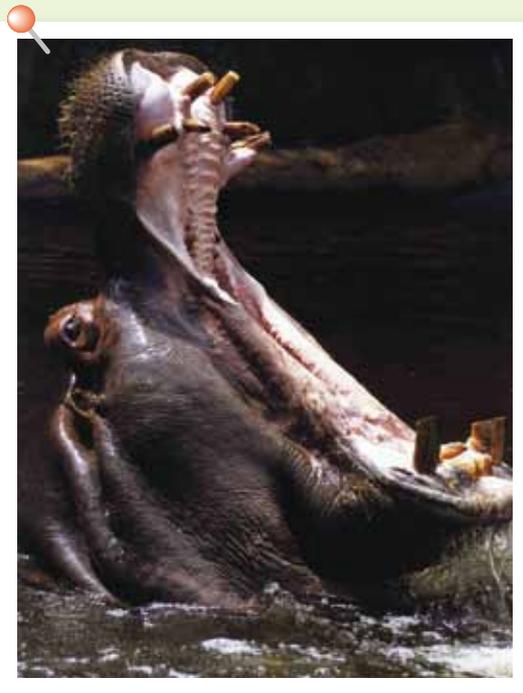
神戸市長賞  
「とべるねんで」

後藤 眞 (大阪府高槻市)



神戸新聞社賞  
「プレゼント」

金田 壮雄 (大阪府高槻市)



王子動物園長賞  
「大あくび」

沖原 智昭 (神戸市垂水区)

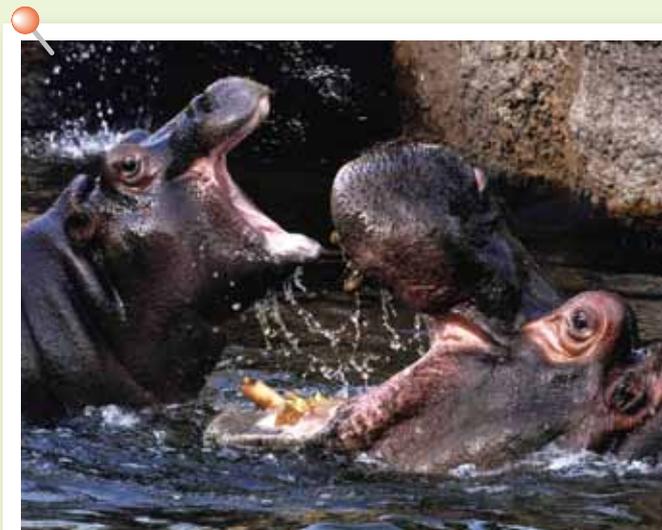
入 選.....10点  
佳 作.....20点  
応募総数.....891点  
審査：動物写真家 田中光常先生

# 動物写真コンクール



サンテレビジョン賞  
「クジャクの羽根に鳥が舞い込んだ」

末広 利明 (兵庫県小野市)



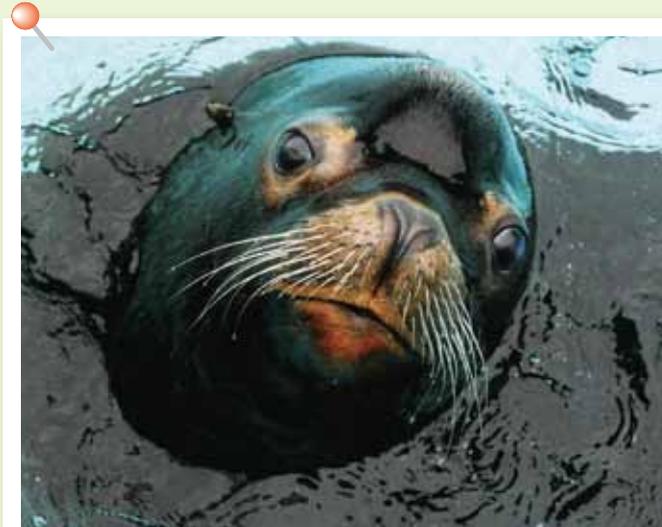
神戸市動物愛護協会会長賞  
「母娘バトル」

勢田 裕造 (神戸市西区)



神戸市公園緑化協会賞  
「いただきます〜す」

米澤 義人 (神戸市兵庫区)



兵庫県写真材料商協同組合賞  
「ひょうきんもの」

藤井 克己 (兵庫県西宮市)



## 夏休み自由研究サポート展

# 「動物園・ふしぎ発見!」から

### 開催期間：2010.10～10.12

## 動物園で自由研究をしよう!

夏休みの自由研究に「何をしようかな」と迷っていませんか?

動物園にはいろいろな研究材料が眠っています。

そこで今年の夏は、動物園でどんな自由研究ができるかを紹介し、テーマの決め方や研究方法などの役立つ情報を提供いたしました。

また、動物園が所蔵する骨格や剥製、糞、卵などの標本を見やすく展示し、飼育動物の情報提供や実際に標本に触れることのできるコーナーも設けました。



## テーマを決めよう

☆ まず園内の動物をじっくり観察しよう!

- ☆ 「なぜかな?」
- 「どうしてかな?」
- 「すごいな!」

と思ったことからテーマを考えよう。

☆ 自由研究おすすめシートも利用しよう。→



ヘビのウンチって  
どんなかな?



フラミンゴが片足で  
立つのはどうしてだ  
ろう?

絶滅しそうなのつ  
どんな動物?

ゾウは鼻をどんな風  
につかって食べるの  
かな?

## まず動物観察の練習をしてみよう

### ☆ 観察1

その動物の特徴をつかもう。

かかとはどこでしょう?

足の指は何本あるかな?



体のもようを  
調べてみよう



### ☆ 観察2

トラの体・ウォッチング!

耳のウラは  
どうなっているかな



ひとみの形は  
どうなっ  
ているかな

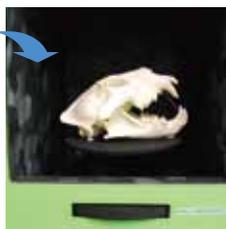




# 自由研究に役立ちそうな標本がいっぱいあるよ。



この頭骨クルクル回るよ



ワーイ！  
引き出しの中から  
小さな頭骨が出てきた。



ここを  
あけてみて



いろいろな  
方向から観察  
できるね。



「王子動物園個体情報  
カード」や「エサ・フン図鑑」で  
いろいろ調べられるね。



動物のエサ（固型資料のいろいろ）



動物のいろいろな手型・足型



フンの標本

ヘビやナマケモノの  
ウンチがあったよ！



絶滅のおそれのある動物



鳥の卵と羽

動物たちの骨格とはく製も  
たくさんあるよ。動物の体の  
ことを調べられるね。



骨のタッチングコーナー

特別賞作品7点  
(敬称略)



### 神戸市長賞

前田 晃 (神戸市北区・箕谷小学校5年)



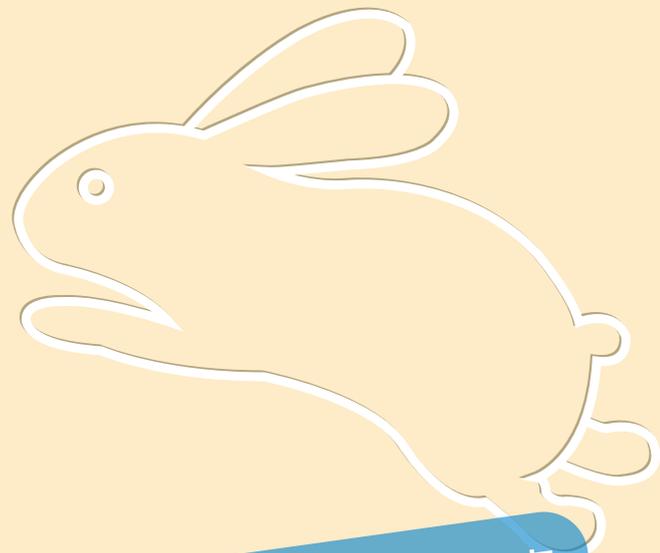
### 神戸新聞社賞

和田 晴之 (神戸市東灘区・バンビーナ幼稚園)



### 王子動物園長賞

池田 希 (兵庫県姫路市・勝原小学校6年)



金賞	.....	30点
銀賞	.....	100点
応募総数	.....	1,446点
審査:	版画家 川西 祐三郎	

# 賀状版画コンクール



サンテレビジョン賞

西村 毅 (岡山県高梁市)



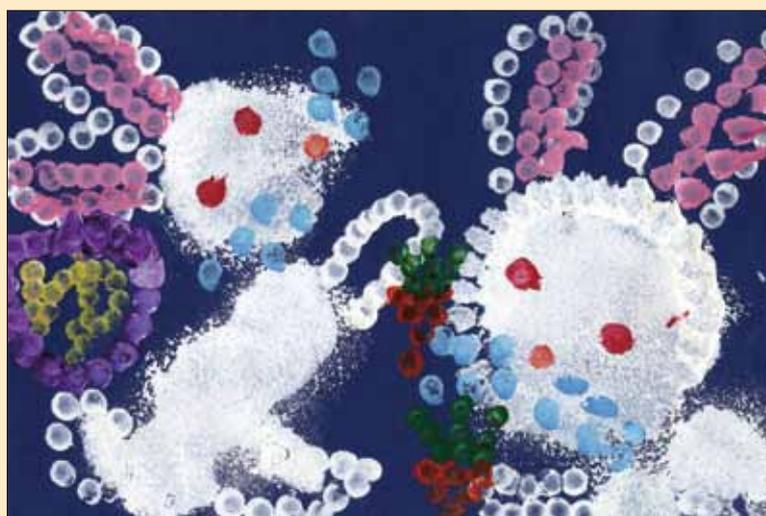
神戸市教育委員会賞

中村 由惟 (兵庫県小野市・小野小学校4年)



神戸市公園緑化協会賞

大植 麻亜耶 (神戸市須磨区・横尾中学校1年)



神戸市動物愛護協会賞

山本 結音 (兵庫県姫路市・広峰小学校2年)

# 干支展 「ふしぎの国のウサギたち」

(平成22年12月17日～平成23年2月20日)

今年の干支は「卯」、ウサギの年です。みなさんのよく知っている、かわいいウサギたちですが、本当はどんな動物なのでしょう。

どうして耳が長いの？どうしてウンチを食べるの？そんなウサギたちの不思議を紹介する特別展を開催しました。



## Q ウサギにはどんな種類がいるの？

ウサギは一部の島々を除き、世界中の陸地に広く分布し、ウサギ科は10属45種に分類されます。一般的に、毛の生えていない未熟な形で生まれてくる『穴ウサギ』と、毛が生えて生まれてくる『野ウサギ』に分けられます。

日本にいる野生のウサギは『野ウサギ』ですが、ペットとして飼われているウサギは全て『穴ウサギ』を品種改良したものです。

### ◇日本にすむウサギたち◇

日本にはノウサギ属4亜種、アマミノクロウサギ属1種のウサギたちがすんでいます。



エゾユキウサギ



トウホクノウサギ



オキノウサギ



キュウシュウノウサギ



アマミノクロウサギ

王子動物園のふれあい広場に  
いるボクたちは『穴ウサギ』  
のなかまのカイウサギだよ。



写真提供：(公財)東京動物園協会

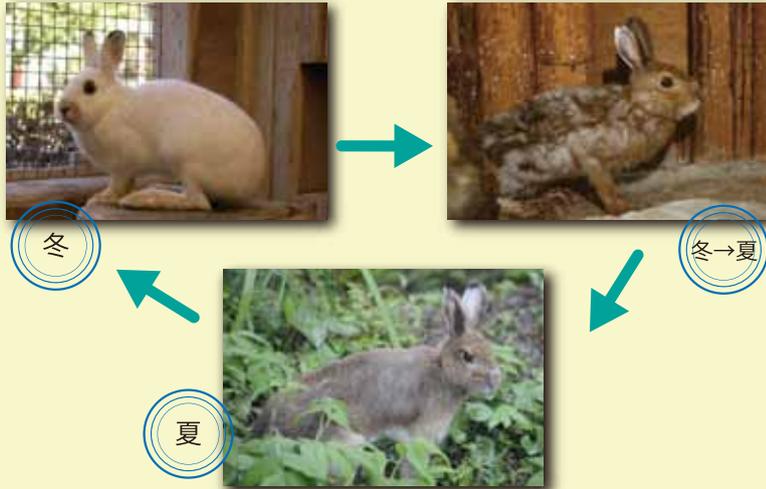
## ● からだのふしぎ

ウサギの体の、驚きのヒミツを紹介しました。  
見た目はかわいいけど、実はすごい！

### Q ウサギが変身するってほんと？

A 本当です。寒いところにすむウサギは、季節によって毛の色が変化します。

〈トウホクノウサギの毛色のうつりかわり〉



写真提供：(公財) 東京動物園協会

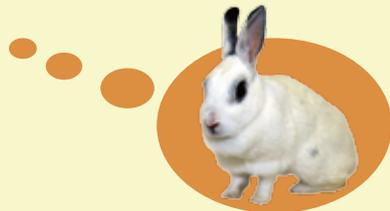
雪国の野ウサギは、9月中旬になると少しずつ毛が白くなり、12月の初めごろになると、耳の先と目だけを黒く残し、全身が美しい純白に変化します。

そして、翌年の1月下旬ごろから白い毛が少しずつ抜け、5月下旬には全身が夏毛の褐色となります。

これは、季節とともに変わる周囲の環境にあわせた毛色に変化することで、外敵から見つかりにくくするのに役立ちます。

### Q どうして耳が長い？

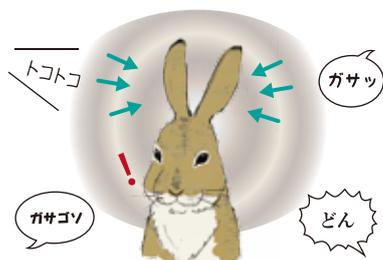
A 音をよくきくため・体温調節をするためです。



#### ◇耳はアンテナ◇

ウサギたちをねらう天敵の足音など、あやしい音をいち早くキャッチする大事な役割をしています。

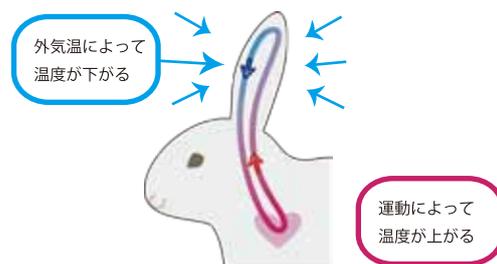
耳の付け根の筋肉が発達し、たえず動かすことができるので、どんな方向からの音もききとる事ができます。



#### ◇耳は体温調節装置◇

ウサギの耳の皮膚はうすく、気温によって血液の温度が変わります。耳の血管をとる血液の量を調節し、耳から熱を逃がして体温を下げるのです。

そのため、夏は血管が目立ちますが、冬はあまり見えません。

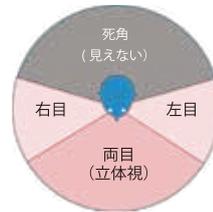
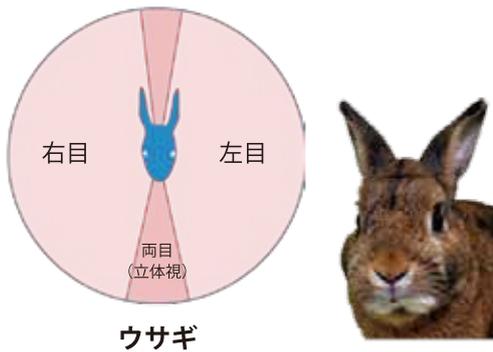


## Q どうして目が横についているの？

A 肉食獣がどんな方向から来ても、すばやく逃げるため。

◇視野がとっても広い！◇

ウサギは、目が顔の両脇についているので視野が広く、後ろから近づいてくる天敵を早く発見することができます。



トラやヒトの目は、顔の正面についています。

## ● 行動のふしぎ

あれ？どうしてあんな動きをするのかな？  
ウサギの不思議な行動を紹介しました。

## Q 家に帰るとき、忍者になるってホント？

A 追手（捕食者）に気づかれないよう、足跡が消えたように見せる技を使います。

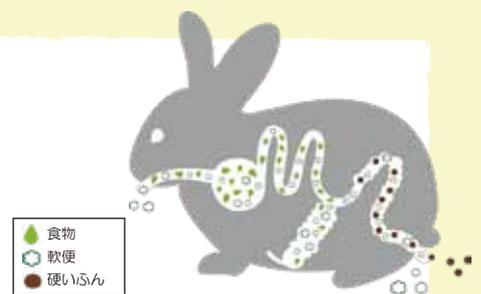
- ①自分が来た足跡をたどって戻り、数メートルの距離をジャンプ！
- ②また別方向に進み、しばらくするとまた自分の足跡をたどる。
- ③巣の近くまで来たら、またジャンプ！巣に潜みます。



## Q どうして自分のウンチを食べちゃうの？

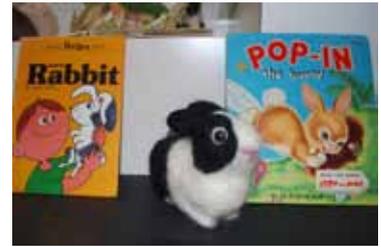
A 栄養たっぷりの腸内細菌を消化吸収するため。

ウサギは、盲腸の中で腸内細菌の働きにより繊維質を発酵させ分解し、消化しやすい形にします。腸内細菌はタンパク質とビタミンB群に富んでいるので、たくさんの細菌を含む軟便は、栄養豊富な「食品」になります。ウサギにとって軟便は、生きていくのに欠かせないものなのです。

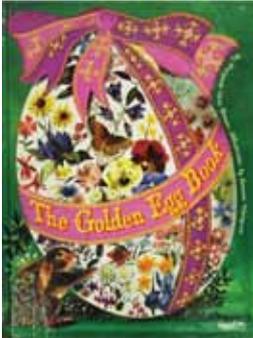


## ● お話の中のウサギ

ウサギは、絵本の世界でも人気者。  
さし絵の魅力的な外国の本を集めました。

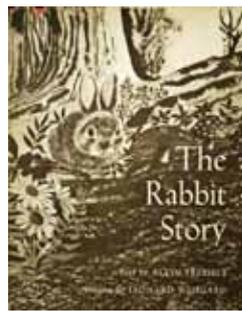


### The Golden Egg Book (1947)



大きなタマゴを見つけた小さなウサギ  
を待っている新しい出会い。タマゴに入っ  
ているのは誰かな？待っているうちに眠  
りこんでしまって・・・。

### The Rabbit Story (1957)



お母さんウサギに教えてもらったこと  
を生かして、りっぱにひとり立ちできる  
かな？ウサギの子供の、成長記。  
モノクロのさし絵が美しいです。

### Funny Bunny (1950)



しっぽのないウサギさん。どうやったらしっぽを  
手に入れられるかな？森の仲間たちと一緒に、しっ  
ぽを探します。  
楽しい絵がとても魅力的な一冊です。

## ● ウサギの切手

かわいいウサギは、切手のモチーフとして人気があります。



## ● 穴ウサギに変身！コーナー

土の中に巣を作る「穴ウサギ」になりきろう！



# 新たなサポート企業をご紹介します

動物サポーター

住宅リフォーム オール電化 建築土木工事全般  
 **株式会社 アーネスト**  
 株今村化学工業白蟻研究所 指定施工業者  
 TEL.078-975-4888 / FAX.078-975-8806  
神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております  
 神戸市立王子動物園

支援する動物 クジャク  
**株式会社アーネスト**  
 神戸市北区緑町8-1-6-308

動物サポーター

**Benesse**®  
神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております  
 神戸市立王子動物園

支援する動物 フサオマキザル  
**株式会社ベネッセコーポレーション**  
 大阪市北区中之島2-2-7

動物サポーター

 **株式会社 温調サービス**  
神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております  
 神戸市立王子動物園

支援する動物 ヤマアラン  
**株式会社 温調サービス**  
 神戸市須磨区衣掛町4-2-30

動物サポーター

Live House KOBE  
**Back Beat** バックビート  
 Live House KOBE  
**Mersey Beat** マーシービート  
(MACHIBA ZOO 2009~2010)  
〒651-0095 兵庫県神戸市中央区東川崎町2丁目5-12  
(代)TEL 078-231-3933  
神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております  
 神戸市立王子動物園

支援する動物 エジプトルーセットオオコモリ  
**株式会社MCC**  
 神戸市中央区雲井通2-5-1

- ・久保 直毅
- ・中尾 維吹
- ・塩見 裕行
- ・浅川 響
- ・小西 徹
- ・谷口 智美
- ・山村 凜
- ・山本 景翔

- ・山本 敏夫
- ・土肥 湧太
- ・大西 亜由美
- ・宮内 宏明
- ・篠原 周
- ・田中 絹子
- ・阿部 紀子

- ・野口 瑞生
- ・土肥 大智
- ・らんびー
- ・宮内 千晴
- ・前川 登代子
- ・岡部 美弥
- ・高木 清孝

- ・野口 瑚生
- ・岡村 朋奈
- ・山本 和暉
- ・堀江 翠
- ・鈴木 加代
- ・山村 楓
- ・小林 美咲

(※前号発行以降、新規登録され掲載希望のあった法人・個人のみ掲載)

日頃のご支援に感謝申し上げます



## 動物サポーター大募集



～市民に親しまれ、市民とともに活性化することを目指して～

王子動物園では、動物サポーター制度を実施しています。この制度は、動物園を支援していただける企業・団体等（法人サポーター）や個人（個人サポーター）からの寄付（年単位）を動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営経費に充てるというもので、動物園をより身近に感じていただき、市民に支えられながら動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

### 法人サポーター

対象は法人・企業・団体で、ご寄付いただいた法人等については、園内の動物舎前等にその名称を記載したプレート（デザイン等は原則共通）を設置します。また、それぞれの法人等は、王子動物園を支援している旨を記したロゴ入り支援マークを使用することができます。

### 個人サポーター

ご寄付いただいた個人の方については、お名前を園内の支援者一覧に掲載するとともに、年間パスポートや機関誌、サポーターシールの進呈、サポーターズデイへのご招待（抽選）をします。

# チンパンジー「ジョニー」の リアルフィギュア制作日記

ジーオ インターネット放送局  
「世界の王子動物園へアプロジェクト」より

作った人…遠藤 慎也 えんどうしんや



特殊メイクアーティスト  
ARC+EST STUDIO 代表



チンパンジー  
モデル…「ジョニー」



神戸市立  
王子動物園 代表

## 制作スタート!

たのしみ  
じゃなあ



2011年1月6日



針金とギブスで骨組みをつくります。  
チンパンジーの手足の長さがよく分かります。

2011年1月10日



骨組みに、ねんどで肉付けをします。  
チンパンジーらしくなってきたかな?

2011年1月18日



王子動物園で公開制作。  
チンパンジーたちも興味津津です。

2011年1月27日



今日も王子動物園で制作。  
ヘラなどで削りながら形を整えます。

2011年2月8日



「目」を入れたところ、  
かなりの目からです!

油粘土で型どり、さらに調整します。  
細部を表現していきます。

2011年2月18日



シリコンを塗り、外側を強化プラ  
スチックで固めます。型枠できあがり。

2011年2月24日



バラバラにした型枠の内側に、着色した  
シリコンを何度も塗ります。  
固まったら型からはずして組み立てます。

2011年3月9日



チャームポイントの  
白いおとげもぼっちり!

Ji.O リーオインターネット放送局

質感の似ているヤクの毛を、少しずつ  
チクチク植えます。根気のいる作業!  
このあと、最終調整をして……

**できあがり!**



「ジョニー」のリアルフィギュア

バックナンバー  
売店で  
販売中



■ 66号  
◎特集1  
「オランウータンの人工  
哺育日記」  
◎特集2  
「コアラ繁殖への取り組み」  
◎特集3  
「インドホシガメ再繁殖への  
道のり」



■ 65号  
◎特集1  
「オランウータンの誕生」  
◎特集2  
「カバの誕生」  
◎特集3  
「ファンボルトペンギンの  
繁殖」



■ 64号  
◎特集1  
「フタユビナマケモノ」  
◎特集2  
「水生のカメたちがたくさ  
んやってきた」  
◎動物園活性化への  
取り組み



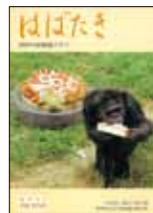
■ 63号  
◎特集「諏訪子」



■ 62号  
◎特集  
「北園リニューアルオープ  
ン」 「インドゾウ「オ  
ウジ」の誕生」  
◎担当動物個体の紹介



■ 61号  
◎特集  
「ルリコンゴウインコの  
繁殖」  
◎動物たちの出産の準備  
「カバ」「ジャイアントバ  
ンダ」「インドホシガメ」  
「インドゾウ」



■ 60号  
◎特集  
「ジャイアントパンダの  
共同繁殖研究」  
◎動物たちの高齢化対策  
「鳥類」「ゾウ」「コアラ」  
「チンパンジー」  
「レッサーパンダ」



■ 59号  
◎特集1  
「コウノトリ飼育史」  
◎特集2  
「動物園の調査・研究」  
◎繁殖への取り組み  
「ジャイアントパンダ」  
「インドゾウ」「ペンギン」  
「コアラ」「サル類」  
「カンガルー」



■ 58号  
◎特集「フラミンゴの繁殖」  
◎休園日の動物園  
◎王子動物園活性化ワーク  
ショップについて～魅力  
ある動物園をめざして～



■ 57号  
◎特集1  
「モモちゃん永遠に」  
◎特集2  
「外来生物って何？」  
◎ねむる  
「サル編」「鳥編」「ゾウ・  
オオアリクイ編」「ナマ  
ケモノ編」「草食動物編」



■ 56号  
◎「モモ」  
「インドゾウ・メス1歳」  
の近況  
◎動物の搬入・搬出  
「ゾウ編」「フラミンゴ編」  
「コアラ編」「キンシコウ  
編」「キリン編」



■ 55号  
◎特集1  
「日本初アジアゾウの繁  
殖」  
◎特集2  
「ゴリラの展示再開」  
◎動物たちの暑さ対策

ふれあい広場「ふれあいタイム」▶ 毎日3回

ホッキョクグマのドボンタイム▶ 火・木・土曜 午後1時10分ごろ

動物教室▶ 日曜・祝日午後1時15分～3時

ペンギンガイド▶ 日曜・祝日午後3時30分ごろ

ホームページ▶ <http://www.city.kobe.lg.jp/ojizoo/>

テレフォンサービス▶ Tel.(078)881-8102

休園日: 毎週水曜日(祝日の場合は開園)、12/29・30・31・1/1



定価(税別)  
300円